

電子複写不可

硫黄島及南西諸島方面航空作戦記録

復員局
防衛研修所図書館



後身局

目次

第一章

概説

第二章

第六航空軍ノ編成

第三章

硫黃島作戦ニ關スル概況

第一節

作戦ニ關スル概況

第二節

作戦直前ノ状況

第三節

作戦實施

第四章

天號作戦準備

第一節

中央ノ施設

第二節

軍ノ作戦準備

第一

概況

第二

軍ノ作戦準備

第三

作戦實施

第四

作戦直前ノ状況

第五 燃料、彈藥ノ準備

第六 三月ニ於ケル準備狀況

第五章 天號航空作戰實施

第一節 米軍作戰企圖ノ判斷

第二節 作戰ニ移行セラル狀況

第三節 作戰實施

第一 第一章

第二 第一擊後三月三十一日迄ノ狀況

第三 三月三十一日ヨリ第一次總攻撃迄ノ狀況

第四 第一次總攻撃

第五 第二次總攻撃

第六 第三總攻撃

第七 第四總攻撃

第八 第五總攻撃

第九 第六次總攻撃

第十 第七次總攻撃

第十一 義勇作戰及第八次總攻撃

第十二 第八次總攻撃以後ノ狀況

第一章 概説

本報告は、第六航空軍が日本本土を襲撃し、南洋方面に展開した戦況を、一九四二年三月から六月までの間に於ける沖縄方面に對する作戦の概要を記述する。

第六航空軍は、教導航空軍司令部に代り本土に於ける航空作戦を指導し、南洋方面に展開した。一九四二年三月、第六航空軍は、南洋方面に展開し、沖縄方面に對する作戦を開始した。この作戦は、第六航空軍の主力部隊が、沖縄方面に展開し、沖縄方面に對する作戦を開始した。この作戦は、第六航空軍の主力部隊が、沖縄方面に展開し、沖縄方面に對する作戦を開始した。

この作戦は、第六航空軍の主力部隊が、沖縄方面に展開し、沖縄方面に對する作戦を開始した。この作戦は、第六航空軍の主力部隊が、沖縄方面に展開し、沖縄方面に對する作戦を開始した。この作戦は、第六航空軍の主力部隊が、沖縄方面に展開し、沖縄方面に對する作戦を開始した。

同日防衛總司令官ニ與ヘラレタル命令ノ要旨左ノ如シ

一 防衛總司令官ハ現任務ノ外左ノ航空作戰ヲ實施スベシ

(1) 「マリアナ」諸島及硫黃列島方面ニ於ケル航空作戰

(2) 九州ヲ基地トスル南西諸島方面ニ於ケル航空作戰

二 防衛總司令官ハ第六航空軍司令官ヲシテ遠ニ東部、中部及西部ヲ

通ズル一貫セル防空戰闘ヲ指導セシムルモノトス

三 「マリアナ」諸島敵航空基地攻撃使用兵力左ノ如シ

飛行第六十戰隊

飛行第一百戰隊

第二獨立飛行隊

第三獨立飛行隊

第四獨立飛行隊

二前項ニ基キ防衛總司令官ハ第六航空軍ニ對シ左ノ任務ヲ附與セリ

一 「マリアナ」諸島敵航空基地ノ制壓

二 本土ニ於ケル航空作戰準備

右任務ハ教導航空軍ノ任務ヲ繼承スルモノニシテ新ナル意義ヲ有セズ、而シテ命令ニ示シタル本土ニ於ケル防禦戰闘ノ統一實施ニ關シテハ現ニ防空ニ任ジツアル東部、中部、西部ノ各軍ヨリ航空ヲ以テスル防空ノ任務ヲ減少セシムルモノナラズ各地至軍ノ地上防禦ヲ關係、防空指揮及情報通信網等ノ點ニ就キ直ニ對シテ防空戰闘ノ實施ヲ一貫シテシムルニハ必要ノ組織ヲ以テ防空戰闘司令官ニ對シテ第六航空軍ニ任ズルヲ要スルモノナリ

昭和二十一年三月二十六日命令

第十飛行師團 (註) (戰隊ノ意ナリ)

ハ敵ノ硫黃島攻略企圖ノ準備爆撃ニテテ天ヤ新機體ヲカキテ
リタリ依テ軍ハ硫黃島喪失ニ先着テ使用ヲ得ル機體ヲ準備
アナ」等ヲ攻撃スルノ必要アリトシ之ヲ遂行スルニ防衛隊司令官
アルト共ニ準備スルトコロアリ

三、一月下旬在硫黃島ノ小笠原兵員長ヨリ大卒營ニ

「敵ノ硫黃島ニ對スル爆撃ノ強化ヲ他ヨリ判斷シ其ノ來攻準備
アリト豫想セラルルトコロ海上輸送ノ杜絶ニ伴フ硫黃島ノ防備施
設ノ進歩ハ憂慮スベキモノアリ、「マリアナ」敵航空基地ニ對ス
ル攻撃ハ本土防衛ノ爲必要ナルハ之ヲ認ムルモ硫黃島失陷ノ本意
防衛ニ及ボス影響ヲ比較セバ此ノ際「マリアナ」攻撃ヲ止メ硫黃
島ニ對スル軍需品ノ空輸ヲ行フヲ急務ト思考ス」
トノ意見具申アリ

參謀總長ハ右小笠原兵員長ノ意見ヲ答シ從來ヨリ積須賀ニ逐次掃蕩
ル硫黃島向軍需品中緊急ト認メタルモノヲ約三十分頃々同島ニ運送

ルニ決シ一月三十日此ノ旨防衛總司令官ニ命令ス

依テ防衛總司令官ハ軍ノ「マリアナ」敵航空基地攻撃豫定ヲ一時的ニ
中止シ右緊急軍需品輸送ヲ實施セシムルコトトシ直ニ軍ニ對シ命令ス
軍ハ次期攻撃ノ準備中ナル^{60%}及^{110%}ヲ以テ右空輸ヲ行フコトトシ二月二
日之ニ關スル命令ヲ下達シ前半^{60%}ニ區分シ立川ヲ基地トシ二月
四日乃至十二日ノ間空輸ヲ實施セリ本空輸ハ兩戰隊共洋上航法ノ爲好
機會ナリキ

第二節 作戰直前ノ狀況

二月六日敵機動部隊ハ新ナル行動ヲ開始セル算アリテ比島方面ノ戰況
ニ鑑ミ其ノ本土方面來襲敵ニ小笠原方面就中硫黃島攻略ニ對シテハ嚴
戒ノ要アリト判斷セラレタリ

軍ハ當時既ニ東支那海周邊地域ニ於ケル作戰（天號作戰）ニ關スル準
備ヲ命ゼラレ著々實行中ナリシガ敵ノ硫黃島攻略ニ際シテハ一部ノ兵
カヲ以テ敵ノ上陸ヲ妨害シテ小笠原兵團ノ戰闘ニ協力スベキヲ命ゼラ

ルルコトアルヲ豫期シ用兵ノ腹案ヲ決定セリ、即チ 60F 及 110F ノ選抜セル
 少數機ヲ以テ先ヅ硫黃島周邊ノ敵艦船ヲ攻撃シ又第四獨立飛行隊ヲ以
 テ硫黃島附近ノ情況ヲ偵察セシムル如ク豫定ス
 而シテ本作戦ハ軍司令部ノ通稱號及參加部隊何レモ教導航空軍ヨリ引
 續キアル爲「靖四號」作戦ト呼稱スルコトトセリ

第三節 作戰實施

一、二月十四日海軍ヨリ敵船團「マリアナ」方面ヨリ北上ストノ通報ヲ
 得タルヲ以テ直ニ靖四號作戰關係部隊ニ對シ警戒態勢ニ在ルベキ旨
 ラ命令ス、翌十五日海軍機ハ硫黃島南方海面ニ敵艦艇群ヲ發見セリ
 ト報ジタルモ未ダ艦砲射撃ヲ行ヒアラザルヲ以テ未ダ上陸ノ機ニア
 ラストシ處置スルトコロナカリシガ夜ニ入り輸送船ヲ含マサルコト
 判明ス

二、二月十六日早朝ヨリ關東地區各飛行場ニ對シ敵艦載機ノ來襲アリテ
 延一〇〇〇機ニ達シ一方硫黃島ニ對シテハ敵ハ十六日早朝ヨリ熾烈

ナル艦砲射撃ヲ開始シ其ノ兵力視界内ニ在ルモノ
 AX1 BX2 CX10 DX5 EX50 (註)

▲ハ航空母艦、●ハ戰艦、○ハ巡洋艦、◇ハ驅逐艦、△ハ潜水艦
 ※チ同島周圍ニ五群ニ分レ其ノ主力ハ南方海面ニ位置シ又十六日
 敵ハ千島海岸ハ硫黃島東南海岸ニチチ攻撃部隊ヲ派シノ偵察ヲ實施ス
 以テノ警戒ニ基キ軍機ノ襲撃ハ上陸部隊ノ進軍ニ伴ヒテ實施ス
 ▲十六日早朝ヨリ敵艦艇ノ攻撃ヲ受ケテ我々ノ艦艇も被害ヲ蒙リ
 敵艦艇ニ交戦シアラサルヲ以テ先ヅ在敵艦艇ノ對シ艦砲射撃ヲ
 行ヒテ本攻撃ハ重爆各機ニ五〇五機ヲ派シテ敵艦艇ノ襲撃ヲ
 撃エシテ而カモ夜間ハ重爆各機ヲ派シテ敵艦艇ノ襲撃ヲ
 技術之ヲ許スモノアリテ確信ヲ重シキニシテ

三、二月十七日朝來敵機動部隊ノ艦載機ハ關東地方各飛行場ニ來襲
 セルモ午後ニ至リ機動部隊ノ南下ト共ニ其ノ來襲機ミタルヲ以テ
 九 110F

ト交互ニ攻撃セシムベク 60Fニ對シ選抜少數機ヲ以テスル硫黄島周
ノ敵艦船攻撃ヲ命令ス
四兩戦隊ノ攻撃状況左ノ如シ

| 月 | 日 | 部隊 | 機数 | 攻撃 | 成績 | 果損 | 官損 | 官捕 |
|----|------|------|----|----|--------------------------|----|----|------|
| 二月 | 十六日夜 | 60F | 二 | 一 | 艦種不詳一機撃沈 | 自爆 | 一 | 一機命中 |
| 二月 | 十七日夜 | 60F | 三 | 一 | 艦種不詳一機撃沈 | 自爆 | 一 | 一機命中 |
| 二月 | 十八日夜 | 110F | 二 | 二 | 艦種不詳大型一機撃沈 同 艦種不詳一機撃沈 | 自爆 | 一 | 一機命中 |
| 二月 | 十九日夜 | 60F | 二 | 二 | (資料ナシ) | 自爆 | 二 | |

五敵ハ二月十九日硫黄島ニ上陸ヲ開始セルガ同島守備隊ハ二十日ヨリ
果敢ナル逆襲ヲ加ヘタル爲千島海岸ハ後續上陸兵力及軍需品ト相俟
テ大混亂ヲ惹起セルノ報アリタルヲ以テ軍ハ敵上陸點爆撃ノ好機ト
判断セシメ二機ヲ以テ悪天候ヲ衝キ二十二日〇ニ三〇敵上陸海岸ニ
超低空爆撃ヲ決行シ十數箇所ヲ炎上爆破ス

六硫黄島ヨリハ二月二十四日更ニ爆撃、點火具等ノ空輸投下方要求シ
來リタルヲ以テ三月六日夜 二機ヲ以テ空輸ヲ決行セルガ島島通過
後連絡絶エ硫黄島亦混戦ニ陥リアル爲之ガ成否ヲ確ムルコト能ハズ
七爾後軍ハ天號作戰準備ノ爲九州ニ前進スルコトトナリ本作戦ヲ打切
ルコトトナリタリ

第四章 天號作戰準備

第一節 中央ノ施策

一、硫島方面ノ戦況逐次不利トナルニ及ビ昭和十九年末頃ヨリ大本營ニ
於テハ敵ノ次期作戰指向方面ヲ東支那海周邊地域就中南西諸島方面

ト豫期シ之ニ對スル方策ヲ研究シ一月中旬防衛總司令部及第六航空軍ニ對シ大本營ノ企圖スル構想ヲ内示シ作戰準備ヲ促進セシムルト共ニ大規模ノ特攻隊編成ニ著手ス

ニ二月六日内地防衛軍ノ戰鬥序列ヲ令スルト共ニ南西諸島方面ニ對シ防衛總司令部ノ行フベキ航空作戰實施ノ準備タルベキ陸海軍中央協定並ニ東支那海周邊地域ニ於ケル航空作戰指導要領ヲ示達ス

三前項陸海軍中央協定中專ニ關係アル要項左ノ如シ
ノ方 針
陸海軍航空戰力ノ統合發揮ニ依リ東支那海周邊地域ニ來攻ヲ豫想スル敵ヲ擊滅スルト共ニ本土直接防衛態勢ヲ強化ス
右作戰遂行ノ爲特攻兵力ノ整備並ニ之カ活用ヲ重視ス

2 航空作戰指導ノ大綱
陸海軍航空兵力ハ遂カニ東支那海周邊地域ニ展開シ敵來攻部隊ヲ擊滅ス

陸海軍航空部隊ノ主要目標ヲ海軍ハ敵機動部隊陸軍ハ敵輸送船團トス但シ陸軍ハ爲シ得ル限リ敵機動部隊ノ攻撃ニ協力ス

3 陸軍航空兵力運用計畫腹案左ノ如シ

| 面方土本 | | | |
|---------------|----------------------------|-------|-------|
| 8 FA | | | |
| 兵力備豫 於出整備ス | 西月三三月 可及的多數兵力ヲ 抽出整備ス | | |
| | △ 90 | 1 60 | △ 400 |
| | △ 80 | ニ 10 | ニ 45 |
| | △ 10 | ③ 30 | |
| | ニ 20 | ④ 10 | |
| | ニ 25 | ⑤ 100 | |
| | ⑥ 300 | | |

兵力ハ三月末日途整備
モノヲ示ス

(註) 特務ノ意味左ノ如シ
(陸軍)

| 灣臺 | |
|------|-----|
| 8 FD | |
| △ | 120 |
| ○ | 20 |
| △- | 40 |
| ニ | 10 |
| ① | 250 |

南西諸島

| 面方那支 | |
|-------|------|
| 5 FA | |
| 定豫留残 | 定豫用轉 |
| △ 30 | △ 75 |
| △- 70 | ○ 20 |
| ニ 16 | ① 30 |
| ② 150 | ③ 50 |

| 南海 島那支 | |
|-----------|----|
| 3 FA | |
| △ | 15 |
| ○ | 5 |

4 海軍航空兵力運用計畫腹案左ノ如シ

| 面方土本 | | | |
|----------|-----------|---------|--------|
| 10AF | 5AF | 3AF | |
| 實用機 700 | f°x (200) | f°x 300 | f°x 40 |
| 練習機 1300 | f°x 10 | f°x 80 | f°x 10 |
| | f°x 30 | f°x 50 | f°x 10 |
| | f°x 70 | f°x 30 | f°x 10 |
| | f°x 30 | f°x 30 | f°x 10 |
| | f°x 70 | f°x 30 | |
| | f°x 10 | f°x 20 | |
| | f°x (5) | | |
| | f°x 5 | | |
| 計 2000 | 計 520 | 計 510 | 計 70 |

南西諸島

南方諸島

| 灣臺 | |
|------|----|
| 1 AF | |
| f°x | 40 |
| f°x | 10 |
| f°x | 10 |
| f°x | 5 |
| f°x | 5 |
| f°x | 5 |
| f°x | 5 |
| f°x | 5 |
| f°x | 5 |
| 計 | 85 |

- △ 陸軍航空機
- 海軍航空機
- △- 陸軍航空機
- ニ 陸軍航空機
- ① 陸軍航空機
- ② 陸軍航空機
- ③ 陸軍航空機
- ④ 陸軍航空機
- ⑤ 陸軍航空機
- ⑥ 陸軍航空機

| | | |
|------|----|-----|
| 陸軍航空 | 東部 | 60 |
| | 中部 | 50 |
| | 西部 | 50 |
| | 本州 | 150 |
| | 支那 | 150 |
| | 南洋 | 50 |

10AF 八作戦隊備司令部
トシ特務訓練ノ概成ス
四月末ノ日途

指導關係

本島及東支那海周邊地城ニ於ケル航空作戦指導ヲ本則トス
尙卒土境面ニ在リテ航空作戦指導最高指揮官ハ一層協同
ノ實ヲ發揮セシメガ爲メ作戦範圍ニ場所ニ對シテ位置スルヲ本則トス

四大本營ヨリ示シタル東支那海周邊地城ニ於ケル航空作戦指導要領ノ
要旨左ノ如シ

ノ方針

本年三月末ヲ目途トシ東支那海周邊地城ニ於ケル航空作戦準備ヲ
完成シ敵來攻部隊ヲ擊退ス
本作戦ヲ天號航空作戦ト稱ス

指導要領

航空作戦指導ノ主眼ハ敵艦隊掃蕩ヲ謀成スルニ在リ右目的達成
爲ニハ敵部隊ノ來攻途徑ニ在リテ直接掃蕩兵力ヲ温存シ且敵艦隊
ヲ發見シ追跡スルニ在リ

第三章 軍ノ作戦準備
第一節 要旨

昭和二十年一月中旬大本營及陸海軍總司令部ヨリ天號航空作戰準備
ニ關スル内示ヲ受ケルヤ作戦要領及作戦準備實施ニ關スル研究ヲ急ギ
又三月初頭福岡ニ於テ陸海軍天號關係部隊ノ連絡打合セヲ終リ次々
三月十日軍司令官以下九州ニ前進シ第一期通信演習及兵洪演習ヲ實施シ
三月十七日ヨリ大本營ノ主催スル第二期通信演習ニ參加中十八日ヨリ
敵機動部隊ノ來襲ヲ受ケ續イテ幾柯モナク慶良間群島ニ敵ノ上陸ヲ見
ルニ及ビ引續キ天號航空作戰實施ニ移リタリ

第二 軍ノ天號航空作戰計畫

一、天號航空作戰ノ爲ノ軍ノ作戦計畫ハ作戦開始迄之ヲ具體化スルヲ得
ス、三月十三日ノ軍兵棋演習ニ至リ漸ク稍々具體的因子ヲ含マシム
ルニシテタリ

二、天號航空作戰ノ計畫ハ作戦開始迄ニ至リ漸ク稍々具體的因子ヲ含マシム
ルニシテタリ

第二號作戰ノ計畫ヲ繼承セシメ修正ヲ加ヘタルモノニシテ其ノ要
ニ作戦兵力ノ主体ヲ特攻隊ニ置キタルモノトス即チ機動能力ヲ缺ク
特攻隊ノ特性ニ鑑ミ所謂「張り着ケ」展開ノ形態ヲ取リ「射撃出立
機動場」ハ可能ノ最大限ノ兵力ヲ位置セシメ「射撃出立」能ハ機動
隊秘匿シ置カントスル特攻戦法ニ基キ捷二號作戰ノ計畫中機動及
攻撃ニ關スル點ニ必要ノ修正ヲ行ヒタリ

特攻隊ノ作戦計畫

特攻隊ノ作戦計畫ハ作戦開始迄ニ至リ漸ク稍々具體的因子ヲ含マシム
ルニシテタリ

海四師島方面ニ特攻隊ヲ配置シ且軍政軍ノ主体ヲラシムル爲左ノ如ク特攻隊
攻撃ノ初動ヲ擔任シ且軍政軍ノ主体ヲラシムル爲左ノ如ク特攻隊
攻撃ノ初動ヲ擔任ス

特攻二隊

特攻二隊

伊江島 特攻三隊
徳之島 特攻二隊

72
54
316

沖縄飛行場整備ニ伴ヒ之ニ特攻一トニ除テ展開又又直掩隊
トシテ約二中隊ヲ徳之島ニ配置ス

九州方面ニ於テハ本土ニ近接スル敵機動部隊攻撃及沖縄方面攻撃
ノ兩者ヲ考慮シ都城(東)及西、新田原ニ特攻六隊ヲ、知覽、五箇
上別府、浪ノ庄ニ特攻七隊ヲ展開シ未モ別隊ヲ機動隊同隊
ノ附シ各々一指揮官ヲ守統一指揮セシム
而シテ南西諸島ヲ特攻隊機動隊ニ別方面特攻隊ハ戦闘隊ヲ
下南西諸島ニ躍進シ攻撃ヲ實行ス
又一般飛行部隊ハ九州ニ展開シ南西諸島方面ニ對シテハ抗戦機
ノ機種ハ知覽ヲ中繼シテ攻撃ス
一般飛行部隊ノ展開飛行場ヲ左ノ如ク添修ス
司 偵 詰 本

襲 撃 (輕爆) 木刀洗、黒道康
重 爆 船本、木刀洗

特作戰開始後軍ニ對スル特攻隊ノ増加ヲ豫想シ前揚各飛行場以外ノ
飛行場ニ在リテモ極力分散秘匿ノ爲ノ施設ヲ行フ

展 望

敵機動部隊ノ展開ニ對シテ我々亦豫想シ前揚各飛行場以外ノ
飛行場ニ在リテモ極力分散秘匿ノ爲ノ施設ヲ行フ
又一般飛行部隊ノ展開飛行場ヲ左ノ如ク添修ス

應シ超低空又ハ急降下攻撃ヲ實施ス超低空攻撃ニ於テハ迅速な
ヲ行フモノトス

7 敵機動部隊ノ本土近接ニ方リテハ特定ノ特攻隊ヲ以テ之ヲ攻
ハ勉メテ海暮ニ行ヒ戰鬪一戰除ノ固接接談、戰鬪戰鬪ノ直接接談
ノ下ニ二隊以下ノ特攻隊ヲ以テ實施ス

同右作戦計畫ニ於ケル戦法ハ從來ノ研鑽及北洋海軍戰術ノ結果
等ヲ參照シテ採リタルモノトス
五以上ノ如キ當初決定セル作戦計畫ハ戰術學ノ理論ニ依リテ
戰術實施ニ方リテハ相當ノ變更ヲ實施スルニシテ、戰術ノ本旨ハ
始終ルコトナカリキ

第三 航空基盤ノ準備

一 飛行場ノ準備

豫想作戦地方面ノ各飛行場ハ昭和十九年夏秋間第二號作戦準備トシ
テ之ガ整備ヲ實施セラレタルモノナリ、東部方面ノ整備ニ應ズル國軍重點ノ

臺灣以南ヘノ指向、教導航空軍ノ「マリアナ」方面作戦實施及河軍
司令部ノ廢止ニ伴フ南西諸島及九州方面作戦準備ニ對シテ直接補助
ノ減少等ニ因リ其ノ實施補助ノ如ク進捗セズ昭和二十年三月頃ニ於
テハ軍ノ企圖スル天號航空作戦實施ノ爲ニハ海軍側ノ欠陥ヲ有シテ
事ナリ

二 通信準備

軍ニ作戦遂行ノ根柢タル有線、無線通信機關及施設ニ極メテ不備ナ
ク状態ヲ以テ天號作戦ヲ實施セザルベカラザルニ對シテ、戰術ヲ以テ悉
ク既存ノ機關及施設ヲ利用スルノ外ナカリシニ方キ、西軍ノ協力ヲ
得テ不十分乍ラ作戦遂行ニ支障ナカクシムルニシテ、無線通信
網及施設ヲ新ニ設クル場合ニ對シテ、海軍側ノ欠陥ヲ有シテ、本通信
網ノ整備ニ應ズルニシテ、

海軍側ノ欠陥ヲ補正シ位置セシムルニシテ、海軍側ノ欠陥ヲ補正シ、
無線通信網ノ整備ニ應ズルニシテ、

第四 特攻隊ノ準備

天號作戰ヲ設想シ中央部ニ於テハ敵進攻破砕ノ主戦力ヲ特攻隊ニ委シ
トトシ二月ニ入り約五十隊ノ特攻隊ノ編成ヲ示達ス

本特攻隊編成ノ要領ハ概要左ノ如シ

一機數 一隊十二機(但重爆ハ八機)トス

二編成ハ各教導飛行師團、防空彙行師團、教育飛行部隊之ヲ擔任ス

三飛行機ノ改修ハ陸軍航空本部ニ於テ各航空廠ニ命ジ實施ス

四各特攻隊ハ夫々第一、第五、第六航空軍及第八飛行師團ニ配屬ス

五各特攻隊ハ重爆ヲ除キ操縦者及飛行機ヨリ成ル之ヲ各編成擔任部

隊ハ整備ニ必要ナル最少限ノ人員ヲ特攻隊ニ編成ス

六各特攻隊ニ對シテノ豫備機ヲ有セシム

七編成ハ二月末日迄ニ完了ス

第五 燃料、彈藥ノ準備

九州方面ノ燃料、彈藥ノ準備ハ兵站總監部ノ計畫ニ基キ陸軍航空本部

之ガ實施ニ任ジタリ、燃料ニ就テハ既ニ捷二號作戰準備トシテ豫備ノ
モノヲ集積セラレアリテ只機種ニ應ズル若干ノ集積ヲ行フノ點アリ

豫備ハ捷二號作戰準備ニ依リテ〇〇座、二五〇座等ノ若干ハ集積ス
ルヲ以テタルモ特攻用ニ五〇座彈ノ準備ハ其ノ改修作業ハ抗敵機
ノ整備ニ對シテ先ニ進メテ實施スルニ當リ、軍ノ豫備彈藥ノ整備
ノ要領ニ依リテ先ニ作戦發起時先ツ其ノ一部ヲ知照スルニ當リ

第六 三月ニ於ケル準備狀況

二月二十八日、三月一日ノ兩日編成ニ於テ大本營主催ノ天號開隊

海軍航空隊部隊打合せ談開催セラレ陸軍ヨリハ海軍ヨリハ

各幕僚參集ス

本聯合ニ於テハ大本營ノ空軍ハ天號開隊準備ニ對シテ海軍ヨリハ
ニ作戰スルヤ否各々自己ノ部隊ノ狀況ヲ基礎トシテ開陳シ殊ニ海

軍國ノ思想ノ統一ヲ圖リ相互他部隊ノ狀況ヲ理解スル上ニ效果アリ
タリ、本打合ノ結果陸軍トシテハ内地、朝鮮、支那、臺灣ヲ一環ノ
作戦區域トスル通信及情報組織ニ根本的欠陥アリテ以テ至急之ガ改
善ノ方置ヲ取ルト共ニ大本營統帥ノ下ニ三月中旬陸軍通信演習ヲ行
ヒ其ノ向上ヲ圖ルコトトセラレタリ、又右打合ニ於テ陸軍部ハ陸軍
司令部ノ座屋ニ位置スベキヲ主張スルトヨリ陸軍部ハ陸軍部
通信準備ノ關係上臨陣ニ位置スルノ要アルヲ説明シテ解ヲ盡タリ

二、通信演習

第一期通信演習ハ軍内ニ於ケル指揮、情報通信ノ演練ヲ行ヒ天號作
戰準備ノ促進ヲ圖ラントスルモノニシテ軍司令部之ヲ統帥
九州内無線通信部隊ハ陸軍航空通信學校教育隊ニシテ三月下旬
展開セル状態ナリシヲ以テ演習ノ結果ハ各種ノ無線通信ノ設備
然ナルモ特ニ各飛行場ニ於ケル通信司令ノ活動本島ニ基テ通信ノ阻
害多カリシヲ以テ大ニ之ガ教育、指導ニ努力セリ

第二期通信演習ハ支那、臺灣、朝鮮等關係方面諸國ノ演習、陸軍部
ニ於テ統一實施スル情報放送等ヲ實施シ作戦準備ニ資スルモノ
ル爲大本營之ヲ主催シテ三月十七日演習ヲ開始セルモノ同日敵機動部
隊近接ノ實際情況生ジテ十八日九州方面ニ其ノ空襲ヲ予ケタルヲ
以テ直チニ演習ヲ中止セラレ軍ハ實際ノ作戦行動ニ移ルニ至レリ
然レドモ以上ノ如キ通信演習ハ軍天號作戦遂行ノ爲大ナル價值アリ
タリ

三、兵棋演習

第一期通信演習ニ引續キ三月十四、十五ノ兩日陸軍部於テ天號作
戰兵棋演習ヲ實施シ作戦參加部隊長ヲ集メ豫想作戦ノ進行ニ關シテ
圖面主要領ヲ基礎トシテ各部隊ノ作戦、戰術實施要領ヲ具シテ
研究ス

陸軍部演習ノ戰術準備要領ニ關シテ
具體化セルモノナリ

機飛行部隊ノ九州移動

軍ハ二月末天號作戰豫定部隊ヲ逐次本州中部以東ヨリ九州機飛行部隊ニシテシムルノ處置ヲ取リタルガ三月中旬末ニ於テハ左ノ如ク狀態ニ在リタリ(括弧内ハ舊位置ヲ示ス)

| | | |
|------|-----------|--------|
| 100F | 司令部 (北伊勢) | 都城 (東) |
| 101F | (大正) | 都城 (東) |
| 102F | (北伊勢) | 郵城 (西) |
| 103F | (伊丹) | 隈ノ庄 |
| 62B | 司令部 (鉾田) | 太刀洗 |
| 65F | (鉾田) | 田邊原 |
| 66F | (下志津) | 太刀洗 |

部隊主力移動ニシテ整備修理中ノ部ニ在リ

部隊主力移動中

110F 60F 4f 8

- (八街) 熊本ヨリ福岡ニ移動ス、其ノ整備力ハ尙不十分ナリ
- (兒玉) 熊本部隊主力移動了ル
- (濱松) 一部太刀洗、主力濱松

第五章 天號航空作戰實施

第一節 米軍作戰企圖ノ判斷

米軍ニ於テハ硫黃島作戰ノ後米軍大規模作戰方面ハ南西諸島就中沖繩本島或ハ狀況ニ依リ臺灣方面ニシテ使用兵力ハ當初三師團内外爾後六師團内外、作戰時期ハ三月下旬乃至四月上旬頃ナルベシト判斷セラレアリ

即チ比島、硫黃島兩方面ニ進出セル米軍ハ日本本土進政ノ前提トシテ空、海兩前進根據地ヲ更ニ一步進メ支那大陸トシテ連繫ヲ圖リ且日本軍ノ活動ヲ日本本土ニ封入スル爲南西諸島方面ニ一本ノ楔ヲ打込

ムノ要アルハ明カニ豫想セラレタリ
而シテ米本國ヨリ「ハワイ」ヲ經テ「レイテ」及「マリアナ」方面
ニ對スル輸送船團ノ動キハ硫黃島作戰後モ引續キ活潑ニシテ三月上
旬ニ於テハ從來ノ最高潮ニ達シ又昭和二十年ニ入りテヨリ米潜水艦
ノ南西諸島方面出現ノ増加、^{E29}ノ南大東島、沖繩本島附近ノ約三回
ノ偵察並ニ三月中旬頃ヨリ「リアナ」及「レイテ」ヨリニ
機ノ南西諸島方向ヘノ増加等ハ一般戰略關係ト相俟テ米軍大規模
ノ指向方面ハ南西諸島方面ノ算大ナルコトヲ示シ狀況ニ依リ臺灣ニ
先ヅ上陸スルコトアルベシト思ハレ南西諸島ニ在リテハ其ノ價值ニ
鑑ミ沖繩本島ニ上陸スル機會最モ多シト判斷セラレタリ
而シテ其ノ兵力ハ從來ノ例ニ鑑ミ三月下旬乃至四月上旬ニハ約三乃
至六師團ヲ新作戦ニ使用シ得ベク其ノ作戰時期亦從來ノ米軍作戰間
隔、硫黃島作戰ニ協力セル機動部隊ノ次期作戰準備完了時期及三月
上旬以降米軍通信狀況中特設隊名符號ノ出現再ビ活潑トナリ新

作戰開始ノ徵候出現等ヨリ三月下旬乃至四月上旬ニハ約三乃
至六師團ヲ新作戦ニ使用シ得ベク其ノ作戰時期亦從來ノ米軍作戰間
隔、硫黃島作戰ニ協力セル機動部隊ノ次期作戰準備完了時期及三月
上旬以降米軍通信狀況中特設隊名符號ノ出現再ビ活潑トナリ新

尙參謀本部第二部ニ於テハ上陸作戰實行ノ戰術的觀察上其ノ時機ヲ
月暗ヨリ月明ニ向フ時機トシテ最近ノ米軍ノ傾向ヨリ四月十四、五
日ヲ上陸時機トスルコトモアリ得ヘシトノ觀察モ行ハレタリ
二軍ハ大本營、海軍等ノ判斷並ニ觀察ニ基キ敵軍ハ概ネ四月上旬頃
西諸島方面ニ上陸シ來ルベシト豫想セリ而シテ三月中旬ノ兵機演習
ニ於テ研究セテ結果米軍ノ攻陸船團ハ「レイテ」及「マリアナ」南
方面ヨリ行動ヲ起シ臺灣東海方面ヲ經テ沖繩本島東方面ニ近接
シテ以テ沖繩本島南西部方面ニ進入シ、^(中略)飛行アベシト豫想シ又
北ト共ニ南部正面(漢川正面)一部ノ上陸ヲ行フベシト豫想シ又
上陸ニ先ダチ機動部隊ニ依ル爆撃及上陸二ト三日ヨリ熾烈ナル艦
砲射撃ヲ行フコト從來ノ上陸作戰ト同様ナルベシト判斷セリ又沖繩
本島ニ上陸スルニ方リテハ兩側ニ對スル制壓ヲ行フベク從ツテ德ノ

島及九州方面ハ機動部隊ニ依ル空襲ヲ反復蒙ルコトヲ豫想セルモ徳ノ島ニ當初ヨリ一部ノ上陸ヲ見ルコトハ無カルベシト判断セリ之ニ反シ宮古島、石垣島ハ良好ナル飛行場ヲ有スルヲ以テ状況ニ依リ當初ヨリ敵ノ上陸ヲ見ルコト無キヲ保シ難シト觀察セリ

第二節 作戰ニ移行セル狀況

敵機動部隊ノ九州來襲

三月十四日中央ヨリ敵機動部隊行動ヲ開始セル後候テ其ノ進路ヲ受テ軍ハ各部隊ニ警戒ノ態勢ヲ取テ其ノ兵機演習及九州方面ニ於テ其ノ部隊長會同ヲ豫定ノ如ク實施ス
三月十七日午後敵機動部隊來襲ノ虞大ナル旨ノ情報ヲ得又海軍第五航空艦隊ハ索敵ニ努メツアルヲ知り豫定ノ如ク第二期通信演習第一日ヲ送リタルガ同夜二三三〇海軍ハ九州東南方海面ニ敵機動部隊ヲ捕捉シ直ニ之ガ攻撃ニ決シタリ
軍ハ諸隊ニ分散、遮蔽ヲ徹底的ニ行ハシメ、又特偵隊ニ出動スル

コトアルヲ豫想シテ所要ノ準備ヲ爲サシメタリ

新クテ十八日未明ヨリ敵艦載機ハ南九州各飛行場ニ來襲シ此ノ日延約一三〇〇機ニ達シ通信演習ハ十八日朝中止セラレ十九日敵機動部隊ハ四國、中部、東海方面ヲ空襲セル後南下セリ

軍ハ今次敵機動部隊ノ來襲ニ臨シ結々豫想ヨリ早カリシガ南西諸島方面上陸作戰ノ序幕愈々開始セラレタリト判断シ作戰準備時期ヲ作戦實施時期ニ移レルモノトシ十八日ヲ以テ福岡ニ軍機司令部ヲ開設シ未ダ不十分ナル作戰準備ヲ急進度ニ整齊ルコトトセ

敵機動部隊ノ急進準備

傳政隊ノ九州招致

軍ハ新ク特攻隊一五隊中東部方面ニ設置ヲ命ゼラセテ其ノ六隊ヲ陸軍九隊ハ未ダ九州ニ前進シテサリシヲ以テ戦力増チルモノヨリ速カニ九州ニ招致シ夫々飛行團長（攻撃集團長）ノ掌握下ニ入

ル如ク命令ス

2. 特攻隊ノ増加

軍天號特攻隊九隊ノ可動機數ハ三月中旬ニ於テハ約四〇機ニシテ其ノ中直チニ作戰ニ支障ナキ戰力ヲ有スルモノハ五隊ノ2021各機(武隊)ニ過ギス

大本營ニ於テハ天號作戰必至ト成レルニ應ジ第六航空隊軍天號作戰特攻兵力ヲ二五隊ト定メ新ニ軍二一六隊ヲ増加セラルタリ此等一六隊ノ中ニハ三月ニ入り編成セラレタルモノモ多ク會合アリテ其ノ素質區々ナリシガ一般ニ其配屬特攻隊ト同様訓練尙十分ナラス又充足要員ト機種ノ關係一致セズ飛行機ノ狀態亦不良ニシテ最モ重要ナル作戦初段ノ戰力發揮ヲ困難ナラシメタリ

3. 通信施設ノ促進

通信演習ノ結果ニ鑑ミ無線通信網ノ整備強化ヲ更ニ速カニ完整スルト共ニ其ノ信頼度ニ鑑ミ有線通信網ヲ強化シ各飛行場ト軍司令

部トノ間ノ直通電話回線及各政務集團司令部ト軍司令部間ノ電信回線ヲ速カニ完整スル如ク措置セリ

三. 軍ノ聯合艦隊司令長官指揮下ヘノ轉移

三月十九日左ノ内地防衛軍命令ヲ受領ス

第一第六航空軍司令官ハ陸西諸島方面ニ於ケル作戰ニ隨テ聯合艦隊司令長官ノ指揮ヲ受クヘシ

海軍聯合艦隊司令長官ハ第六航空軍司令官ニ於テ第六航空軍司令官ノ指揮ヲ受クヘシ

第六航空軍司令官ハ第六航空軍司令官ノ指揮ヲ受クヘシ

第六航空軍司令官ハ第六航空軍司令官ノ指揮ヲ受クヘシ

第六航空軍司令官ハ第六航空軍司令官ノ指揮ヲ受クヘシ

ノニアラザルヲ以テ聯合艦隊司令部ト打合ノ際ニ等何等問題トナ
ルコトナカリキ

ニ新クテ軍ハ海軍指揮下ニ於テ作戦スルコトナリシガ聯合艦隊司
令部及第五航空艦隊ト軍トノ相互通信連絡ノ準備ハ鹿屋一福岡間
ヲ除キ全ク無キ爲聯合艦隊ノ命令ハ情報等不達又ハ著シキ遅延ヲ
見ルヲ以テ之ガ實現方聯合艦隊ニ要求シ作戦開始後若干時ニ於
鹿屋ニ海軍通信班ノ派遣ヲ見タリ

實情況切迫ノ軍ノ處置

三月二十三日夜敵機部隊ハ本島海軍砲臺ヲ攻撃シ翌二十四日ニハ
一部ノ海軍砲臺開始セラレ茲ニ優勢ハ急轉シ敵ノ神龍本島上陸近
キヲ思ハシムルモノナリシカ其ノ海軍砲臺部隊ノ兵力及射撃ノ程
度ハ從來ノ上陸直前ノ狀況ニ比スレバ未ダ大ナラズ
又軍ハ右情況ニ當リ三月末或ハ四月初頭ニ神龍本島ニ上陸シ來ルコ
トアルベシト判断シ本情況ニ於テ軍ノ戦術ニ著眼シ臨スル研究

三月二十四日午後實施ス當時軍ノ狀態ハ作戦態勢急遽完整ノ處置ニ
伴ヒ諸隊ハ行動中ナリシヲ以テ當初ノ作戦考案通り進ムルコトト
セリ

右研究ノ結果二十五日各飛行隊長等ヲ福岡ニ集合セシメ爾後ニ於
テ本島ノ企圖及作戦要領ヲ示シ聯合軍行ヲ、即チ

(1) 第一攻撃集団(59機)、特攻五隊一八機ヲ本島中ノ準備ヲ進捗ニ伴
ヒ速カニ南西諸島(喜界島ヲモ利用ス)ニ推進展開シ攻撃ヲ準
備シ軍攻撃ノ第一海軍砲臺

(2) 第二攻撃集団(59機) 行軍機部隊ヲ福岡ニ集結シ第三攻撃集団(59機) 行軍機部隊ヲ
特攻五隊ニ知照シ南西諸島ニ推進展開シ攻撃ヲ準備シ軍攻撃ノ第一海軍砲臺

(3) 重爆兩隊隊ハ熊本及大分機部隊ヲ爾後ノ艦船攻撃ヲ準備スル

本島本部等ニ著シキ更ニ諸事急遽促進ヲ圖ルコトナリ

三月二十五日午後敵ノ艦長間群島ニ上陸シ情報ニ接シ直チニ司令官ノ偵

察ヲ命ジタルモ出動準備ニ時限ヲ要シ偵察スルニ至ラズ、夜ニ入
リ海軍ヨリ攻取部隊ハ後方基地ヲ出發セルモノノ如シトノ情報
ヲ傳ヘフル

二十六日朝偵察ニ向ヒタル司偵ハ故障ノ爲引返スニ至リ情況ヲ確
實ニ把握スルニ至ラズ

二十六日午後ニ至リ「天號命令」ノ聯合艦隊命令ヲ受領セリ
一方二十六日ニ至ルモ軍ノ作戦開始態勢ハ意ノ如ク進捗セズ即チ
第一攻撃集団司令官タル第一二飛行團司令部ハ比島作戦ノ損耗補
填ナキ爲美ノ指揮活動ヲ開始スルニ至ラズ、一方特攻隊ノ九州集
中ハ其ノ技術不足、整備不良ニ至ク機動ノ遅滞延延、故障事故ノ
發生ニ依リ進捗トシテ進歩セズ

以上ノ狀況ニ鑑ミ軍ハ急々テ急進進り攻撃開始態勢ヲ取り得ルキ
否ヤ際々疑問トナリ同日夜ノ準備研鑽ヲ結果事々此ノ際第貳攻撃
集団ヨリ攻撃セシムルモノトニ決定セ且同集団長ヲ徳ノ島ヲ離離

特攻隊戦力ノ不足ハ第六飛行團ノ兩機撃隊一二十六日可動三七
機ヲ以テ補フヲ適當トスルニ決シタリ

右ニ依リ軍ノ焦慮セル南西諸島ヘノ兵力推進ハ漸ク緒ニ就キ二十
八日第三攻撃集団長、¹⁰⁸八機、⁶⁶一〇機ハ徳ノ島ニ前進スルニ至
レリ

一方第一攻撃集団司令部ニ關シテハ軍内ニ若干ノ人員ヲ増原次
佐ノ指揮下ニ配屬シ臨機ノ指揮機關ヲ編成セ同司令部ヲ福岡ニ移
置セリ又銃艇新攻撃ノ機動態勢ヲ察スルニ新後無事攻撃集団ヲ編
成シ徐々南西諸島ニ進出スルニ決定セリ又第一攻撃集団ノ同機
隊同機隊ノ整備態勢ヲ監視シテ状況ニ鑑ミ軍ヲ戦術態勢ヲ察スルニ

艦隊編成 作戰態勢

第一攻撃集団司令部ヲ福岡ニ移置シ、同司令部ヲ福岡ニ移置シ、
同司令部ヲ福岡ニ移置シ、同司令部ヲ福岡ニ移置シ、同司令部ヲ福岡ニ移置シ、

ノ如クナラザル事情況不明ノ裡ニ經過キルガ二十八日午後漸ク海
南方海面ノ偵察ヲ實行スルニ至レリ

右偵察ノ結果ハ沖繩東方海面ニ何等異狀ヲ認メザリシガ夕刻盛
第八飛行師團司偵ノ偵察結果ノ緊急放送ニ依リ約一〇〇隻ノ敵艦
船團ハ沖繩本島南方ヨリ北上中ニシテ本夜半以降本島附近ニ到着
ハキ旨ヲ知レリ

右情報ヲ入手スルヤ軍ハ軍司偵偵察ノ結果及一般情況特ニ敵艦
ニ對スル敵ノ艦隊射撃ノ程度ヨリ若干ノ疑念ヲ抱キ其時該情報
眞實度ヲ検討スルノ餘裕ナキヲ以テ敵艦隊船團ヲ追跡シ其
軍ノ使命ニ鑑ミ本夜半リ攻撃ヲ開始スルニ決シ第一隊艦隊ノ命令
下達ス

軍ノ二十八日ニ於キハ敵艦隊ハ未ダ全圖ニ露現シ其時敵艦隊ノ
島推進ノ實施未完ナリ以テ一師兵隊ヲ以テ第一隊艦隊ヲ
三重爆隊ノ攻撃

110P

ハ六機ヲ以テ太刀洗ヨリ出動シ一機ハ二十九日〇〇五〇沖繩
飛行場西北方約二〇軒附近ニ於テ巡洋艦又ハ大型駆逐艦ヲ攻撃シ之
ヲ撃沈後高手機ニ不時着シ一名ハ友軍機被撃シテ墜入シ〇軒
本隊島内陸海軍軍用機ヲ於テ巡視不詳ト急テ警戒ス、又他ノ一機ハ一
時陸軍機ニ衝突シ陸軍機及海軍機ヲ捜索セシムル船團ヲ発見セズ
敵艦隊ノ襲撃ノ結果ハ本隊艦隊ヲ追跡シ其時敵艦隊ノ
ハ本隊艦隊ヲ追跡シ其時敵艦隊ノ
ハ本隊艦隊ヲ追跡シ其時敵艦隊ノ
ハ本隊艦隊ヲ追跡シ其時敵艦隊ノ
ハ本隊艦隊ヲ追跡シ其時敵艦隊ノ

第三攻隊第四八艦ノ島ニ進出スル
一九九式駆逐艦ノ襲撃隊
一九九式駆逐艦ノ襲撃隊
一九九式駆逐艦ノ襲撃隊

我々敵艦逐艦一掃... 第一方徳ノ島ニ對スル兵隊ノ準備ハ迄ク進行セシメタリ
日夕及三十日其ノ主力ヲ推進シ初メテ特攻隊ノ島展開ヲ實現セ
リ、三十一日ニ於ケル徳ノ島ノ兵力ハ100大機、600機、66一五機ノ
特攻隊八機トナリタリ

徳ノ島飛行場ハ三十日朝敵艦載機ノ攻撃ヲ受テ機庫ガ三十機
ニ至リ其ノ激烈ナル攻撃ヲ受ク、我方方ハ飛行機ノ分散秘匿ニ努
メ損害ヲ消走路ノ補修ハ同地飛行場中隊及徳ノ島特攻隊ノ兵力ニ依
リ三十一日前半夜ニ完了セシメ得タリ、然レモ敵艦載機ノ攻撃ニ
依リ飛行機秘匿設備ヲ破壊セシメ同島ヨリノ報告ニ依リ機庫ガ
容シ得ルハ約二〇機ニ減少セリ

其「リアナ」方面ノB29ノ本土來襲ハ三月九日以來各機庫ニ襲撃
撃ヲ續ケアリシガ二十七日太刀洗飛行場ニ來襲セリ機庫ガ破壊
依ル九州方面ノ我方航空勢力制壓不十分ナル爲敵ハ今後B29ノ九州方

面來襲ヲ激化スベシト豫想セ各隊ニ一層分散秘匿ノ徹底ヲ圖ラシメ
タガ三十一日再びB29ノ大機太刀洗及佐世保來襲ヲ見タリ、幸ニシ
テB29ノ爆撃ハ航空廠及飛行場ヲ目標トセルヲ以テ飛行場外ニ分散セ
ル軍ノ作戦部隊ニハ全ク損害ナカリキ

第三 三月三十一日ヨリ第一次總攻撃迄ノ状況

三月三十一日午後敵ハ沖繩本島西端ノ神島島ニ上陸セリト報告
セ敵艦ニ艦ヲ軍用機ノ作戦指揮ヲ執ルニ努メ敵艦ノ進軍參謀長兼艦長
等機庫ノ結果敵ノ行動觀察結果ノ機庫襲撃等要途ヲ細キ結論
ニ至リ

三月三十一日午後敵ハ沖繩本島西端ノ神島島ニ上陸セリト報告
セ敵艦ニ艦ヲ軍用機ノ作戦指揮ヲ執ルニ努メ敵艦ノ進軍參謀長兼艦長
等機庫ノ結果敵ノ行動觀察結果ノ機庫襲撃等要途ヲ細キ結論
ニ至リ